大森タツミの恋愛運

竜胆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
大森タツミの恋愛運

【Ｎコード】
Ｎ３４２５ＢＡ

【作者名】
竜胆

【あらすじ】
なぜだかいつもヒバリに遠ざけられてる大森タツミ。
しかし、その日はいつもと違い占いの恋愛運が最高で何かいつもと違う予感するタツミであったが・・・

初投稿です！ネタっぽく仕上げたのでぜひ読んで頂けたら嬉しいです。

第二部隊隊長。装甲少尉。
フェンリルにおける俺――大森タツミの立場は、悪くはない。
…はずなのだが。

良い職業に就いている人間がモテる時代は終わったのか…

俺には好きな人がいる。ミッションを受注する際、可憐な笑顔を振りまいてくれる受付嬢、ヒバリちゃんだ。今まで必死にアプローチしてきたのだが…総スルーされている。

食事に誘ったり、デートに誘ったり、初恋ジュースをおごったり（いや、これは今までにない失敗だった）。

ヒバリちゃんに振り向いてもらうにはどうすれば…

こないだなんか
「ヒバリちゃーん！一緒に食事しない？？」
「んー…。考えなくもないです」

これは酷くないか！？皆は進歩だと言うが…

…と色々考えながらターミナルをいじっていた。

「…お」

榊博士がどこから情報を貰ってるのやら知らないが、「榊博士の

星座占い！」というコーナーが設けられている。どういうわけか俺の恋愛運はいつも最低なのだが…

「ご…5…？？？」

最大の恋愛運！今日は何かがありそうな気がする。少しばかりテンションが上がった。

ヒバリちゃんに会いに行こうか、と思い部屋をあとにする。

すると

「あ、タツミさん」

コイツは…第一部隊隊長で、中尉の新型だ。俺の後輩のくせにもう俺より上の階級ってどういうことだ。

「おう、新型」

「どうしたんですかタツミさん。ちょっと嬉しそうですね」

「分かるか？？今日恋愛運5だったんだよー」

「…え、あのタツミさんさんが！？」

「…俺と書いて、恋愛運なしと読むのは止めてくれないか！？」

新型と共にエレベーターに乗ると、新人区画の階に止まった。

「…あ、タツミさんにリーダー。珍しいな、二人一緒にいるなんて」

「あー、鉢合わせしちまってな」

藤木コウタ。俺が思うに、コイツはリンドウさんに次ぐ女好きだ

と思う。だが、だいぶ前「え？ヒバリさん？興味ないですね（笑）」とか言いやがった。もう気にしてないが。

「…で、どうなんすか？」

とコウタが声をかけてきた。

「…何がだ？」

「何がって…ヒバリさんとのその後に決まってるじゃないすか～」

エレベータがガタンと揺れ、目的階に到着したことを知らせた。

「詳しく聞かせてもらいましょうか」

と笑ってるコウタと新型に連れられて、丁度ヒバリちゃんの真上、エントランス2階のソファーに陣取った。

「その後って…あれだよ、いつも通りだ」

「あ…やっぱり」

「やっぱりって何だ、やっぱりって！？」

「ねぇタツミさん…」

「…なんだ」

「そろそろ動かなきゃヒバリちゃん取られますよ」

「…え。取られる…？んな訳ねーだろ」

「そうだよコウタ。てか実際タツミさん動きまくってるし」

「…確かに」

面倒事に巻き込まれちまったな…俺。

「いいですか、タツミさん！嫌よ嫌よも好きの内って知ってます

か！？」

ろくに恋愛してなさそうなお前に言われたくねーよ。

「つまりね、普段無視してきたり、酷いこと言ってきたりする女の子も、本心は真逆だっていう意味なんですけどね！」

そのままの意味じゃねーか。でも…まじか。

「それが本当なら…両思いの可能性もあるってことか！？」

「そうです！そうなんすよタツミさん！！」

おぉーー！やっぱ今日の恋愛運5って伊達じゃねーな！！いいことが知れた！

「…でもタツミさん」

「どうした？新型」

「これまで頑なに断り続けてきたヒバリさんがですよ？急に心を開いてくれるとも思えませんが」

「…的を射てるな」

確かにそうだ。なら、どうすればいいんだ？

「あ、3人もお揃いで。何の話してるんですか？」

と言いながら近づいてきたのは、第二部隊隊員の台場カノン。恋愛に疎そうなんだよな。

「…とまぁ、こういう訳なんだよ」

おい、コウタ。説明早すぎだろ。

「なるほど。私が思うに、アプローチを受け取って頂けないのは、タツミさんのアプローチの仕方が悪いからだと…」

「方法？」

すると突然コウタが立ち上がった。

「よし！リーダー！タツミさんの為に再現するぞ！」

「…え」

「俺がタツミさん役な！お前はヒバリさん役で！」

「え、ちょっ待って…」

嫌がる新型をよそに、コウタは演技と言う名の茶番をはじめた。

「ヒバリちゃ～～ん！今日、任務終わったら一緒に食事でもどう？？」

「…（無視）」

「どうでした！？俺らの名演技！？」

どうしたもこうしたもねぇｙ…

「凄いクォリティです！」

「えぇっ！？俺ってこんなに不真面目か！？」

「はい！」

笑顔で言うな、カノン。傷つくから。

「でもね、タツミさん。これを改善すれば受け入れてくれるかもしれませんよ」

「そうですよリーダー！もしかしたらヒバリさんは、真面目なリーダーを待っているのかもしれませんよ？」

……そうかもしれない。俺に必要なのは、いつもの真面目さかもしれない。

「…皆ありがとな。俺、行ってくる！」

「頑張ってください！！」

皆の激励を背に、俺は階段を下る。今日なら、行けそうな気がする。恋愛運、5だし。

「ヒバリさん！」

「どうしたんですか？改まって。タツミさん」

「俺…いや、僕と一緒に食事とかどうですか！？」

いいぞ、俺。真面目さが滲みでている。

「えっと」

「うん」

「遠慮…しておきます」

「……」

上にいる連中から声が聞こえてくる。

「やっぱ駄目だったか、タツミさん」

「タツミさんですからね…」

「そうですね…なんたってタツミさんですからね」

…渦巻く絶望の中、俺は一言奴らに言いたい。

――コノヤロウ

（後書き）

というわけで、読んでいただきましてあろがとうございます。

大森タツミの健気さに泣けまして、小説にしたいなと。

それで、初投稿だし実験の意味もありますので、少しコメディちっくにしちゃおうと思い、こんな小説（？）になりました。

小説に対する感想とかいただけたら嬉しいです！

ということでこれからもよろしくお願いいたします！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3425ba/

大森タツミの恋愛運

2012年1月8日22時33分発行